

# 横川流域水害対策協議会（第1回） 議事概要

## ■日 時

令和7年11月27日(木) 16時00分～17時00分

## ■会 場

防災新館4階 407・408会議室

## ■出席者

### ● 会長

- 寺沢 直樹 （山梨県 県土整備部長）

### ● 委員

- 金丸 一元 （南アルプス市長）
- 望月 智 （中央市長）
- 草野 真史 （国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所長）
- 河野 公紀 （山梨県 防災局長）
- 金子 哲也 （山梨県 産業政策部 理事） ※代理出席
- 茂手木 知 （山梨県 農政部 技監） ※代理出席
- 大槻 順朗 （山梨大学大学院 総合研究部 工学域 土木環境工学系 准教授）

### ● 事務局

- 山梨県 県土整備部 治水課

## ■ 配付資料

- 議事次第、出席者名簿、配席図
- 【資料1】横川流域水害対策協議会の規約について
- 【資料2】横川流域水害対策協議会規約（案）
- 【資料3】横川流域水害対策計画の策定に向けて
- 【資料4】今後の予定について
- （参考資料）流域治水対策アクションプラン【横川流域】、横川流域治水検討会設置要綱

## ■ 概 要

### 1 開会

### 2 挨拶（寺沢県土整備部長）

### 3 出席者紹介

### 4 議事

#### (1) 横川流域水害対策協議会の規約について

- 事務局より、【資料1】を用いてこれまでの流域治水の取り組み（アクションプラン）および特定都市河川指定の経緯について説明。
- 続いて【資料2】を用いて協議会規約（案）について説明。審議の結果、「異議なし」で了承された。

#### (2) 横川流域水害対策計画の策定に向けて

- 事務局より、【資料3】について説明。
  - **流域の課題**：昭和57年8月洪水等の過去の被害実績、外水氾濫と内水氾濫の複合的なリスクについて
  - **治水対策の現状**：国による増穂地区引堤や河川防災ステーション整備、県による横川・八糸川等の河道整備状況について
  - **計画の概要**：法定計画としての位置づけ、既存のアクションプランとの相違点（雨水浸透阻害行為の許可制、貯留機能保全区域の指定等の法的枠組みの活用）について

#### (3) 今後の予定について

- 事務局より、【資料4】について説明。
  - 令和8年度内の計画策定を目指し、計3回の協議会を開催する予定。
  - 次回（第2回）は計画素案の検討を行う。

## 〈意見交換〉

### 金丸 南アルプス市長

- 横川の流域治水対策は市にとって念願の事業であり、これまでの河川改修等の進捗により治水安全度は向上している。今後ともよろしくお願ひしたい。

### 望月 中央市長

- 中央市が横川流域に含まれる面積はわずかであるが、本市でも水害に強いまちづくりは重要施策の一つである。本計画の策定に期待をしている。

### 草野 甲府河川国道事務所長

- 気候変動のスピードに対処するためには、河川管理者だけでなく、流域の様々な関係者で連携して対応することが非常に重要である。甲府河川国道事務所としても協議会の一員としてより良い計画となるよう、しっかり取り組みたい。

### 河野 山梨県防災局長

- 防災局ではソフト面で「防災教育」と「避難対策」の二つを連携して取り組ませていただきたい。
- 防災教育は、地域の水災害リスクに関する情報の内容や取得方法を理解し、そこで取るべき行動や取ってはいけない行動（具体例：アンダーパスを通過してはいけない）などを、子供から高齢者まで浸透させていけるような取り組みが必要と思っている。
- 避難対策は、要配慮者利用施設の避難確保計画の策定や、訓練の実施、および、現在、市保健部と策定を進めている避難行動要支援者の個別避難計画の策定を、一緒に伴走型で支援していきたい。
- 広域避難対策について、中央市では既に令和4年3月に広域避難計画を策定済みである。ぜひ南アルプス市にも、広域の避難先の確保を検討するにあたっては、相談していただきたいと思っている。

### 金子 山梨県産業政策部理事

- 流域には様々な事業所が点在しており、水害時でも事業が継続可能な計画となるように今後協議を進めていきたい。
- 流域北部には地域未来投資促進法に基づき、特に重点的に企業を誘致支援する地域重点促進区域を指定している。計画を策定する中で、誘致支援対象となる企業に課せられる義務等について、詳細を確認していきたい。

#### 茂手木 山梨県農政部技監

- 横川の集水域は、南湖地区の水田を初め、水田や施設野菜の一大産地となっている。農政としては主に集水域の対策に貢献したい。
- 当該地域の農業用水路は50年ほど前に、日本住血吸虫病の防止対策としてライニングを行っただけの脆弱な水路であり、老朽化が進んでいる。また、田んぼダムの効果も発揮できるように、農地と水路の一体的な整備を、市と連携して進めていきたい。

#### 大槻 山梨大学准教授

- 横川流域は内水と外水が影響し合う複雑な氾濫特性を持ち、治水に様々な苦勞を重ねてきた地域だと思っている。
- 一方で、川に近いところは地下水が非常に高い一方で、流域の上流部は礫層が厚く浸透機能が期待できる。このような流域の特徴を細かく確認することで、より良い効果が期待できる施策が出るかもしれない。
- 氾濫現象が複雑であるため、内水と外水を一体的に解析する手法を用いて検討することが重要だと考えている。

#### 寺沢 山梨県 県土整備部長

- 河川管理者として河川整備・管理はもちろん、本日お集まりいただいた関係者の皆様の意見を取りまとめ、良い計画にしていきたいと思っている。
- 令和8年度内の流域水害対策計画策定に向けて、皆様のご協力をお願いしたい。

## 5 閉会